

国語科より

【受験生 国語（受験国語基礎）】

1. ご用意いただくものと配付するもの

① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

- 辞書（電子辞書やスマートフォンのアプリ・サイトでも可）

解説の補助として国語辞典・古語辞典などを参照できると便利です。古文・漢文の授業では日常的に使用している古文単語帳や漢文の教材などがあれば、持参しましょう。

また、G1タームで配布する「古文漢文必携テキスト」はG2ターム以降も必ず持参してください。

② 授業内では使用しないけれども、ご用意いただきたいもの

- 古文・漢文の基礎レベルの読解問題集（G2ターム以降）

授業内では、難しめの問題、解くのに工夫が必要な問題を中心に扱います。それを復習することはもちろんですが、日常的な学習に使用するため、易しめの読解問題集も用意し、演習経験を積みましょう（具体的な教材名等は授業内外で担当よりお伝えします）。

- 「赤本」「青本」などの過去問演習用教材

ご自分の志望校でどのような問題が出題されるかを予めある程度知っておくと到達目標の目安がつかえます。閲覧用ですので、実際に購入するのはGターム終了後で結構です。

③ **Gnoble** の授業内で配付されるもの

- 古文漢文必携テキスト：G1-1で配布します。G4タームまで常に使用します。
- 古文漢文演習テキスト：G1-1で配布します。基礎的な問題から過去問まで取り扱います。
- 確認テスト：前回の授業内容の定着を確認するテストです。
- 復習プリント：授業内容の定着を図るためのプリントです。

2. 授業の進み方と日々の取り組み

① 授業の進み方

基礎から標準、標準から応用とタームが進むごとに内容が深まるように授業が進みます。一度の欠席によって抜けてしまう内容が大きい講座になりますので、なるべく欠席しないようお願いいたします。

G1ターム：古文→用言活用・助詞・助動詞・敬語、基礎的な文章読解演習、古文単語
漢文→文構造の理解（再読文字）、基礎的な文章読解演習
現代文→四字熟語他語彙

G2ターム：古文→和歌の修辞法・特殊読み、標準的な文章読解演習、古文単語
漢文→句形・副詞読み・漢文語彙、標準的な文章読解演習
現代文→四字熟語他語彙

G3ターム：古文→標準的な文章読解演習、過去問演習、古文単語
漢文→過去問演習

現代文→四字熟語他語彙、評論文読解演習

G4ターム：古文→標準的な文章読解演習、過去問演習、古文単語
漢文→過去問演習
現代文→四字熟語他語彙、小説読解演習

② 日々の取り組み

A・授業の予復習

G1,2 タームにおいては、予習は課しません。課された課題と復習を中心に学習してください。それに加えて、「古文の全品詞分解や訳の作成」「漢文の音読や書き下し文の作成」などを行っていただければより学力が伸びます。この丁寧な復習に掛けてもらいたい時間は60分から120分です。G3,4タームからは毎授業、事前に解く問題が指定されます(大問1~2題、所要時間30~60分程度)ので、必ず実施した上で授業に臨みましょう。授業後はG1タームからと同じように丁寧な復習を行うことが必要です。

B・基礎知識の確認

一度履修したことは一度で定着させるよう、復習や見直しを徹底してください。授業から24時間以内に一度復習をし(帰りの電車でテキストを見直す程度でも結構です。5分から10分程度でかまいませんのでザッと見直してください)、加えて翌週の授業までに2~3回同じようにザッと見直しをしてください。机に座って丁寧に復習する時間も必要ですが、反復の見直しも大切です。

C・過去問演習

大学・学部ごとに出题形式・傾向の大きく異なる国語では、過去問での演習が重要です(残念ながら、予想問題集は出題を十分に模しているとは評し難く、過去問そのものでの練習を推奨します)。受験国語基礎は夏休みから過去問演習に当たれるように学力を伸ばす講座ですので、G

ターム中は過去問の演習をお勧めはしません。夏期講習以降、それぞれの学習状況に合わせて、各講座の担当が開始時期や頻度などを指示します。東大・難関国語では、メール・FAX等も活用した添削制度を運用しています。

(参考)

東大国語で春期講習に配付した学習アドバイス資料

それぞれの時期に何をすべきか、授業内でクラス全体にお示しします。一方で、個別の事情もあるかと思しますので、遠慮なく担当にご相談ください。

東大国語 1年間の過ごし方

基本の心構え

- ・受験で大きく差がつくのは英数理社。勉強バランスに注意せよ。
- ・通常授業の受講(全受講、ターム選択受講、受講せず)は戦略的に。
- ・「授業でやること」と「自分で勉強すること」の役割分担を意識する
- ・模試受験も問題集も過去問演習も、量より理解度・定着度が重要。復習せよ。

時期	東大国語	個人の国語の勉強・取り組み	模試
春休み	春期講習 (現古漢総合)	古文漢文の基礎(単語・文法)完成	
3/31 ・4/1	入室テスト (古文漢文の基礎)	漢文知識が怪しい人は今のうちから! ◆負担感の ・講習漢文の復習 学校の国語授業・回読の漢文の初形 語彙の質をコピーで読える ・新・漢文の基本ノート形演習白楽社 ・トレーニングノート◎基本漢文句法 受験研究社 ・4月4日実施の白楽社国語漢文会 ◆負担感の大きい入塾テストには差を貼ることで良い 辞書がわかりやすく用せよ ・漢文やマのヤマ ・明説漢文 漢文必修は(学校で講義される漢文の基本書)	学校、自宅で学習する時間を意識し、足りないと感じれば必ず予備校に個人申し込みを行う。習熟度からより、ペースメーカーとして勉強することが重要
4月 GW 5月	G1 現代文 G2 古文	古文・漢文の問題演習(易しめて良い)	5/5全統マーク模試 5/12全統記述模試
6月	G3 現代文	問題集の例書店で自分で選ぼう。夏休みの終わりのまでに古漢1~2冊開読したい。学校が演習形式であれば、それをしっかり予習・復習するのも良い! マーク式演習問題集 古文 河合塾(センターよりやや難) 古文上級 受験研究 河合塾と受験研究社 トレーニングノート◎ 古文 受験研究社 読み解く古文基礎 ◎ 解く! 漢文を教を学問しつづける必書	(範囲学習がほとんど仕上がっていない限りは) わざわざ駿台全国模試(ハイレベル)・河合プライムステージなどを受ける必要はない
7月	G4 漢文	マーク式基礎問題集 漢文 河合塾 実践演習基礎漢文(実践演習) ヒアソソノ相原 漢文(河合塾の白一入) 読解演習問題集	7/28全統マーク模試 (1学期の総決算、駿台もほぼ同時期にあり)
8月	夏期講習 (現古漢総合)	①苦手分野の克服 ②Gタームの復習 ③東大模試の復習 ④過去問1年分 ※春講習には2013年可成	8/3・4河合東大オープン 8/10・11 駿台東大実戦 (できる限り周方受ける) 8/25全統記述模試 (夏休みの総決算、理社の基礎完成チェック)
9月	E1 現代文	(余力があれば)過去問演習 ※2001年~12年の問題を中心に、大問単位で演習する(1年分まとめてもよいが、試験時間が足りなくなる教材ではないので、問題集がわりに1題1題演習する形で構わない) ※現役志向の強い生徒は、私大過去問も問題集的に使用すると良い。 ※2014~19年の問題はセンター試験後実施用にとっておく。不足する場合は、予備校の東大模試問題集を使用する。 ※他教材や東大国語授業の予復習が優先。	10/13全統記述模試 (希望校を迷ってはいれば、希望校決定の最終材料)
10月	E2 古文		11/2・3 河合東大オープン 11/9・10 駿台東大実戦 (土曜で受験希望する生徒は併修・E3カットを要検討)
11月	E3 現代文		11/24全統センタープレ (これが勝負・間違いのセンタープレ受ける)
12月	E4 漢文		
12月中下旬 ・ 1月上旬	冬期講習 (現古漢総合)	国語に関しては、この時期はとにかくセンター演習! ※ここで過去問を80分1セットでやるために解かずに取っておく! ※学校で解いてしまっている場合『センター試験実戦問題バックV』(駿台)などを学校経由で購入できるなら買いたす。市販問題集だけでは演習教材が足りなくなる可能性があります	
1月中旬		センター試験→出願校確定	
1月下旬	直前講習	併願私大過去問演習、東大過去問演習、過去の教材復習 ※2014~2019年の過去問をやれる範囲で実施する一添削制度あり ※後期国公立大を併願する場合も、対策は前期試験終了後からOK	